

新宮山彦ぐるーぷ第1957回

平治宿・持経宿と行仙宿の巡視(雨水槽水抜きなど)

◇実施日；2017年12月03日(日) 快晴

◇参加者；平治宿・持経宿；川島 功、児嶋道夫、濱野兼吉、

上村洋司・和美、村吉光夫、梶野照雄。7名。

行仙宿；生熊敏男、橋本 梓、畑林清子、竹中卓治、

奥村順夫。5名。

計12名

平治宿・持経宿班

新宮高校前で待っていると川島さんから連絡が入り「何処に
いるのかとのこと」私は徒歩で国道168号に出たために、上村車
は私が待機していなかったため、迎えに廻ってくれたのだが：。
タツチの差で行き違いになったらしい。

すぐに上村車が戻り、乗り合わせ新宮組5名は出発。途中、宮
井大橋を渡った所で梶野車が待機して合流する。一緒に村吉
さんが待つ池原スポーツ公園へ。

村吉さんの車に梶野、川島さんが、上村さん夫妻の車には児嶋、
濱野が同乗して出発。両車ともに四輪駆動車。台風後の池郷林道
の様子を聞いていただけに非常に心強い。

石ヤ塔を過ぎるまでは順調良く進むが、林道ゲートを過ぎると
すぐゴロゴロの石が道路上に重なって、車はまるで小舟に乗
って波に揺られるように揺れる。スピードをおとし丁寧に運転を
してくれるが、パンクをしないようにと祈る。

倒木枝を処理し進むと大きな岩が道を塞いでいる、村吉さんは
路肩から前輪のタイヤ半分出して通過する。流石プロは違うと感
心する。二人で大岩を山側に半回転させるが、やはり道幅が狭く、
すぐ村吉車から大ハンマー(8kg)を取り出し大岩を砕き始める

川島、梶野、村吉、児嶋さんらが、交代で大岩を砕き道幅が
かなり広くなり、上村車も無事通過する。



支障になる大岩を大ハンマーにて交代で割る

アスファルト舗装の林道が出てくると「まるで絨毯の上を走っ
ているようだ」と車内が元気になる。時間はかかったが車は持経
宿に到着。林道を歩くより時間の短縮ができた。車中山彦にもユ
ンボ云々も話題に上った。

平治宿班

私たちは川島、村吉さんを残し平治宿に向かって出発。
千年檜お堂の花筒は、水を抜き造花に差し替える。梶野さんは
お供えの盆菓子をさげてザックに納める。

冬枯れの樹間からは快晴の光が差し込み温かく、ジャンパーを
脱いで歩く。

児嶋さんは道中ピンクテープ目印を巻きながら進む。その後か
ら梶野さんが絶妙のタイミングで、結わえたテープをカッターで
切る。後を歩きながら二人のコンビネーションの良さに感心する。

上村夫妻は奥駆道に積もった枯れ葉を、熊手で除去しながら進
んで行く。二人は若いだけにドンドン進む。私たちは山彦ぐるー
ぷの千日刈峰行の第1回標識で休憩し、この標識の作製者・村吉
さんの器用さに改めて感心する。

朴の木の斜木の枝が道を塞いでいたが、それぞれノコギリで枝
を切って通行に支障がないように処理する。尾根を渡る風は冷た

かったが順調よく、11時前には平治宿小屋に到着。



千年檜祠を出発！



中又尾根分岐



朴の木斜木・枝切る

すぐ水場に向かう、今年はまだ霜柱もなく安心して降りられる。水場は枯れて殆ど流れ込んでいない。貯水槽には枯れ葉が溜まり、氷が薄く張っている程度。水と流れ込んだ土砂を汲み出す作業を終了する。貯水槽の壁面のコンクリートが欠けて、修繕の必要がありそうだが春以降の仕事になるのだろう。今年はシーボルトミズが全然貯水槽に入っていない、昨年との違いを感じた。



平治宿に到着



水の流れ無し、



貯水鉄箱の底ざらえ

小屋に戻って昼食。上村さんからの温かい吸い物。食後カフェ「こじま」が開店。銀杏やお菓子の差し入れもあり、ストーブに火が入り、ほっこり暖かな休憩時間を過ごす。午後からは水洗トイレ用のドラム缶の水を抜き、小屋の軒下に移動して冬場の凍結を防ぐ。小屋の中を掃除し、敷いていたカーペットを外に出し埃を払うと、見違えるようにきれいになる。



昼食



水洗用ドラム缶水抜き



小屋横に移動保管

児嶋さんは、ストーブの焚き口を間違って上の炎の覗き窓から木を入れ燃やしている・・・、焚き口を間違わないよう注意書きを焚き口に添える。梶野さんは覗き窓が開かないように、ネジを切って止めるようにしたらどうかと提案。下の焚き口がレンガで閉ざされていたのも原因らしい。使う人はストーブ利用の心得も必要だと思ふ。又、携帯電話の充電器を設置しているが、20円しか入っていないと児嶋さんが嘆く。南奥駆道の利用者にとって「水」「携帯電話」「スマホ」等は、命につながるものであるだけに、しっかり自覚・認識して欲しいものである。充電式の掃除機もあれば便利だとの意見もあったが・・・、難しいところである。作業を終え小屋前で平治宿班の記念撮影をし、持経宿へと戻る。



平治宿内清掃



平治宿作業班



千年檜祠・造花シキミに

持経宿と平治宿の間は、四季折々風景が異なり、新緑の春は新芽の黄緑が素晴らしい。夏の深緑も秋の黄葉、冬枯れの樹間から釈迦や五百羅漢などの眺望も素晴らしい。

ここはブナ、ミズナラ、ヒメシヤラ、トガ、ツガ、千年檜等の数百年を経た巨樹の森を通過する奥駈道が続いている。この財産を次の世代、また次の世代へとつなげていきたいものがある。

持経宿に戻ると村吉さんがコーヒーをたてて待っていてくださった。全く感謝、感謝である。

村吉さんから標識の苦勞譚をうかがった。

持経宿の看板はケヤキ材で固く彫刻が大変で、その上塗装用の塗料が非常に高価だと聞いてビックリした。又、21世紀の森の標識は、ボルト止め跡が外からは見えないよう工夫して作られているそうである。

(記：濱野、写真：梶野)

持経宿班

持経宿班(村吉・川島)は、トイレの汲み出しを村吉さんが担当して下さる間に、薪小屋の入口扉の丁番(中・下)のビスが抜けており、ドライバーで締めたが、抜けた穴だけに次回長いネジで締結したい。その後、玄関右前の薪棚へ薪を運搬し、中段の薪が約半分使われていて、傘立てを踏み台にして、上段の薪を中段に移し変えた。

村吉さんは、玄関周りの掃除と右側雨水槽の水抜きをされ、毛布を畳み直し、毛布棚に「掛け毛布」「敷き毛布」「枕」の保管標識を新規に貼付して下さい。川島は、間伐丸太端材の薪作りに斧を捜すが見つからず、鉄楔とハンマーで薪割りをする。



トイレ汲み出し



毛布棚の置場標識



薪作り

ベンチ前の転落防止用ロープを支える木製杭が、腐朽で用を成さず、次回に取替える(3本)必要がある。

11時半より、川島持参の昨夜の持帰り赤飯を二人で昼食。昼食後、左側の雨水槽の水抜きを行い、午前中の作業を継続する。行者堂、宿内清掃を略終える頃に、平治宿班が戻り、村吉さんが淹れて下さったコーヒーで小休止後、本日作業者の写真を撮り下山する。池原スポーツ公園に無事戻り解散。各車帰路についた。



平治宿班戻る



下山前コーヒーで小休止



本日の作業者



西日を受けた持経宿



池原スポーツ公園にて解散

行動タイム

新宮 7:30→8:35 池原スポーツ公園 8:40→9:00 池郷林道ゲート
→9:55 持経宿 10:05→11:00 平治宿 12:55→13:45 持経宿 14:20
→15:10 池原スポーツ公園 15:25→16:40 新宮。

(記：川島)

行仙宿班

昨夜の山彦忘年会は、早く打上げとなったので、寝過ぎす事もなく気温6℃の中、新宮で橋本氏、畑林氏の2名が同乗。奥村、

竹中両氏と合流の熊野市鬼ヶ城入口まで走る。7時50分奥村車に全員が乗車して登山口へ向う。

浦向を過ぎて、去る21号台風による国道425号線の被害箇所は、綺麗に舗装されていた。又、一番心配していた四ノ川林道は、それ以後重機によって整備されたのか、いつもより路面がきれいに均されていて、心配なく補給路登山口へ着いた。

今回は、特に荷上げする物もなく、モノレールの世話にならず、それぞれ8時50分行仙宿小屋へ向かう。

私が最後に到着したら、皆さん本日作業の準備をしてくれている。小屋の温度計は、6℃をさしている。

畑林さんは、行者堂の掃除、華替え(花瓶の水凍結のため造花シキミに)。奥村君には、薪作りをやってもらう間に、残り3人は水場の点検に降りる。

水は染み出る程度で落石は無かったが、上に張ったしめ縄の一部が切れ掛かっていた。かなり丈夫な縄と思っていたが、やはり落石のためか、又紐でくり付けられていた。シデが全部無くなっていた。登山口水場のしめ縄も同じであったから、シデの取り付け方が悪かったかも知れないと思いつつながら小屋に戻る。宿内掃除、トイレ掃除、ゴミ焼却等も略片付いていて、少し早めの昼食とする。

午後からは全員薪割りとなった。資材(道具倉庫にある、大チエンソーを出して、始動し使用するが途中で調子が悪く、あれこれ調整しながら続けるが、手に負えずあきらめて手作業となる。その内に、我々よりも少し遅れて補給路登山口から登って来て、笠捨山往復の男女6名が降りてきたので、畑林さんと奥村君がコーヒーを接待したところ、お札に千円を置いていたので、志納箱へ入れておきました。

薪割りも終わり、片付けをして14時に行仙宿小屋を後にして、無事熊野市に戻り解散とする。尚、不調のチェンソーは、降ろして修理する事にした。

(記：生熊)